

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）：【地域別】幸福社会館【概要】

令和2年11月8日（日）

13時30分～14時30分

場所 幸福社会館

1 開会の挨拶

（市長）

こんにちは。市長の清水でございます。日頃感じております様々な事柄を、市議会の場でも28名いらっしゃる議員さんから様々な角度でお話を聞かせてもらってまいりまして、様々な要望や考え方があるということも頭に染み込ませているところでございます。そうはいっても現実に地域の社会の中で仕事をしたり、あるいは子育てをしたり、様々な活動をしていたりということでもありますから、また別の視点から物事を感じ取り、あるいは考えていただいていることと思います。ぜひそのところをお聞かせいただければと思っているところでございます。

決められたわずかな時間でございますけれども、ぜひご協力を賜りますよう重ねて申し上げてご挨拶いたします。どうぞよろしく願いいたします。

2 意見交換

（参加者）

こんにちは。砂川町から来ました。

私は砂川公園の真ん前に住んでいるんですが、砂川公園の樹木について、ケヤキやらすごい成長する木ばかりなんです。それで、電波障害も起きまして、市に伺ったら2か月ぐらいたってから何とか木は切ってくれてBS放送が入るようになったんですが、今度植えるときにどのくらい成長するんだろうとか、先を見越して木の種類を考えて植えたほうが税金の無駄遣いにならないんじゃないか。単純な疑問なんですけど、それがもう街路樹になるような木ばかりなんです。本当に成長が早くて、枝払いするにもお金がかかるし、すごく無駄だと思います。外国なんか行くとすごく考えて植えていますよ。それを今日お願いしたくて一番にやってきました。どこのうちもみんな暗くなってね。お年寄りのいるうちも日が当たらないから、寝たきりの人とか施設に入りましたけど、そんな感じなんです。うちも両親がいて、やっぱりおばあちゃんが寝ている部屋は全く日が当たらなくなりました。ですからそういうことも考えてこれから植栽していただきたいと思いました。

もう一つ、トンボなんか来るビオトープという池があるんですが、水が循環しないから、どろどろのどぶみたいになっちゃっているんです。そうすると夏場は蚊がものすごく増えてきますし、もうちょっと考えていただきたいと思うんです。

以上です。

（市長）

樹木の大きいのは砂川公園南側のほうですね。たしかに、ケヤキは20メートルにもなります。

(参加者)

そうです。大きいと30メートルにはなりますね。街路樹ですから、公園にはちょっとふさわしくないと考えたんですね。他にもクロマツとかすごいです。ご近所の方も「自分でお金出すから切ってもいいか」って市にお電話したらね、「それは困る」って。それぐらい周りの人は被害を訴えているんですね。子どももあのビオトープの池に落ちたら危ないなって、いつも私気にして見ているんです。

(市長)

ビオトープには、おそらくきっと底には50センチぐらいの泥が溜まっているのでしょ。確かに危険だ。

(参加者)

それを入れ替えたならまた税金の無駄遣いな。素人は最初からそんなの造らなくていいのと思うけど、言い過ぎましてすみません。

それで市長、ちょっと前にね、その木のうっそうとしたところで首吊り自殺があったんですよ。だからあんまり木が茂っちゃうと、そういうことも心配なんです。

(市長)

分かりました。では早速両方とも安全な方法を考えて対処するように進めます。担当に気を付けるように言います。ありがとうございます。

(参加者)

栄町5丁目から来ました。

栄町は袋路が多くて抜け場所や抜け道がないんですよ。栄町は特に多いんです。だから消防車なんかは随分時間がかかってしまう。あともう一つは栄町には老人ホームがないんです。なんとかできないんでしょうか。

(市長)

道路につきましては、一定の規制をかけて大きな開発をするときには安全を確保するため、道路を広くしたりすることはあるのですが、栄町はもともと、立飛の労働者の住まいが多かったのです。それをベースに栄町の辺りは人が増えていきました。だから大規模開発みたいなことをやっていません。10軒とか、15軒程度は建築されるのですが、すれ違いができるような道路を作らなければならないとか、消防車が入らなければならないという規制が全然かからない小さなレベルで家が建ってきて、それで広がってきたものですから、あのような形になっています。それぞれ行き止まりの道路の先には家があるかと思えます。そういうことを考えると別の角度というか、今までのまちづくりをするのには、例えば50世帯が入るようなマンションを建てる場合にはこれだけの道幅にしなければならない、通り抜けもできなければならないという規制がかかるのですが、少しずつ少しずつだと規制がかからない。その一番厳しいところで、これはまだどこでも解決のできていない課題です。

(参加者)

栄町多いんですよ。

(市長)

そうです。栄町は昔、飛行場を整備して飛行機を専門に造っていたことがあって、その労働者の住居として少しずつ建てていったものですからそのようになったのです。いずれ

にしても一朝一夕に片づくような内容ではありません。少し時間をいただいて、考える時間もないと中途半端な方向性を私のほうで申し上げるのはまだ厳しい状況です。

(参加者)

遅れてますよね。うちの家も建てて30年ですけど、それでなおかつどんどん道が狭くなっちゃったし、家ばかりが建ってしまった。

(市長)

おっしゃる通り、どうしても規制をかけるというわけにはいかない規模です。大規模なりあるいは新築なりということであるならば条件はつけられますけども、古い家が多いですよ。

(参加者)

そうなんです。

(市長)

だから余計、指導あるいは規制をかけるというのは難しくなっています。

(参加者)

火災が起きたこともあります。

(市長)

栄町だけでなく南口の羽衣町の一部もそういうところがあったりしていますので、これはもう市全体の課題であると思っています。今日の返事は申し訳ないのですが保留とさせていただきます、これからもきちんと対応してまいりたいつもりでおりますので、その代わり、歩みはどうしても遅くなってしまいます。よろしくご理解をお願いします。

(市長)

それと老人ホームというお話がありましたが、いわゆる入所ができる老人ホームのことでしょうか。

(参加者)

そうなんです。

(市長)

これは、立川市では1件も持っていません。それを建てて運営するほどの能力が全くありませんので難しい問題ですね。これからもっともっと需要が多くなっていくことは分かっているのですが。

(参加者)

難しいですか。遠くても料金が安いところへ入所したいと思っても、交通費がかかってしまう。夫婦二人暮らしでどちらかが老人ホームに入ると、面会で行き来するので近場にあるといいんだけど、遠くなってしまうと大変です。昭島のほうですと、モノレール、JR、バスを利用しますからね。

(市長)

これは、市立で建てるということは難しいものがあります。正直申し上げて非常にお金がかかります。これから超高齢社会になります。高齢の方々がそれぞれ心身ともに丈夫ですから、寿命が伸びてきます。その割には子どもたちの数が減っています。去年から今年にかけては生まれる子どもが対前年を割り込みました。今までは毎年1,500人ぐらいの子どもたちが新たに命をもらって世の中に出てきていたんですが、今は1,500人をちょっと

下回るぐらい少なくなっています。これはもう日本全体がそうなる政府から聞かされているわけです。その対処をするために今からいろんな形で計画を立てなければだめだと言われています。

なかなかこれも胸を張ってこうですという策を取るにも、高齢者対策というのは完璧な形というのは全く取れずに、お年寄りの方々に病気や調子が悪くなったらできるだけすぐお医者さんにかかっている、それも健康保険を使って多少のお手伝いを今やっていると。いずれにしても高齢者の方々が長寿命になってくることはもう間違いありません。皆さん元気で活躍してもらっているわけですから。そのようなことで申し訳ありませんけれども、それ以上踏み込んだ答弁というのはちょっと厳しいですね。

(参加者)

栄町に住んでおります。

私は今、いろいろ自治会の仕事をしているんですけども、立川市のいろいろな補助金がございます。例えば高齢者の居場所づくりの補助金とか、それからまちづくりの補助金とかいろいろありまして、全部共通なんですけども、物品を買うために物品購入費という科目があるんですが、この科目は補助金の対象外となっております。どういうものが対象かといいますと、消耗品という類と、それから謝礼金ですね、それから印刷費というものについてはオーケーであると。新しいことをやる場におきましては、どうしても設備的なものが欲しいという場面は結構ございまして、消耗品だけではなかなか新しいことができない局面があります。

私、東京都の底力の助成金も申請をしているんですけども、東京都の助成金については物品購入費というものは対象であって、そこでいろいろな将来的な物品を買ったりして、プロジェクトを立ち上げることができるんです。立川市の補助金についても、物品購入についてもうちょっと考えてもらいたい。

それから今、デジタル社会になりまして、実際に新しいソフトを買っていると、そのソフト自体も物品購入に分類されるということでありまして、時代とともにそういう物品購入というものに補助金に対応できるようなことをちょっと考えてもらいたい。あまりにも旧態依然としたような印象を私個人としては受けるんですけど、それも考えてもらいたいと思っております。

(総合政策部長)

すみません。補助金も様々種類があって、制約もあると思いますが、具体的にはどの補助金か教えていただけますか。

(参加者)

例えば市民協働課がやっているまちづくりの補助金と、それから高齢福祉課がやっている居場所づくりの補助金というのがありますけど、ことごとく立川市の補助金というのは全て物品購入というものは許されないというふうになっています。ですから、例えば今小学校がタブレットを持ち始めていると、自治会や老人会でそういうタブレットを買うというときには物品購入だから補助金の対象にならない。それからパソコンのソフトを買う、それも物品購入という科目に分類される。買えるものはトイレットペーパーとか紙などの消耗品である。消耗品はあまり必要ないプロジェクトがあるわけですね。そういう場面において物品購入も対象になるようなそういう補助金であってほしいと思います。

東京都の場合は、物品購入というのがオーケーですから、例えば防災訓練をやるときにテントを買うとかですね、小さな物品を買うことはオーケーなんです。それに近いぐらいの補助金であってほしいという願いがあるんです。

(総合政策部長)

物品というのは具体的には市でいう備品で、少し金額が張るものですか。

(参加者)

金額が張るものもありますし、張らないものもあります。少なくともオンラインのソフト関係を消耗品として扱うようなことでもいいし、物品自体もある程度は固定資産的な価値があるんですけども、長いプロジェクトやるときにはどうしても物品が必要であるというふうになってくるんです。

(総合政策部長)

私もこの2つの補助金になぜ制約がかかっているかということが具体的に申し上げることが、今すぐにはできないのですが、1つは東京都の地域の底力はかなり金額として大きい補助金だったと思います。

(参加者)

自治会単位だと20万という制限がありますけれどもね。

(総合政策部長)

その中ですと、金額が大きい中ではある程度買えるものがあるのではないのでしょうか。

(参加者)

市民協働開発というのは50万円とかいう額がありますからね。額として比較すれば、こっちの方が高いとかっていうのは、それほど差はないと思うんですけども。まちづくりの補助金というのがあるんですよ。

(総合政策部長)

私も先ほど申し上げたとおり細かな補助金の構成が今すぐにお答えできるような状況ではないので、すぐにそれを改善しますとも言えないのですが、一旦は市民協働課、自治会等を担当している部署に、この幸福社会館のタウンミーティングで今の時代にあったような形で補助金の制限を緩和できないかというご意見があったことはお伝えさせていただきます。

(参加者)

幸町に住んでおります。

自治会のことで聞きたいんですけど、立川市の市営住宅に入居していて自治会に入っていないってことはあるのでしょうか。私は老人会に入っているんですけど、老人会には自治会の集会所を貸してくれないんですよ。貸してくれって言ったら1日2,500円、それで衣装ケース1個置いたら毎月500円だって。そんなことはできるんですかね。

(市長)

ほかの自治会の人は使ってはだめということですか。

(参加者)

いえ、違うんです。市営住宅に自治会がないっていうんですよ。

(市長)

自治会そのものがないんですか。

(参加者)

らしいですよ。そこに住んでいる人で、会長さんみたいに取り仕切っている人がいるじゃない。その方が「もう老人会には貸さない、使うんだったら1日2,500円払ってくれ。それで物を置くんだったら衣装ケース1個500円、1か月に取る」って言います。それで老人会の行事がそんなにできなくなったんですね。そんなことってあるのかしら。

(市長)

前後左右の関係がちょっと分かりづらいですけども、江の島住宅の隣の、いつも盆踊りのときには事務所になっているところですか？

(参加者)

江の島住宅のロータリーがあるところに集会所があるんですよ。それで、立川市で建てたものと思って、老人会でそれをお借りしたいと思うんですけど、1日2,500円とか衣装ケースとかそういうのを置くと金額が加算されるというような形なんですね。私たち老人会は何かいろいろしたいんですけど、そこを借りられないんですよ。市営住宅の人たちも結局老人会と一緒にいるから、その集会所を使いたいと思うんですけど、管理人さんがなかなか頑固というか、お金をたくさん出せば貸すようなことを言われてね。そんなお金を年中出していたら老人会も運営できないんですよ。だからもっと安く頻繁に貸していただきたいんですよ。

今までずっと借りていたんですけど、今度、管理人さんが代わったことでお金をたくさん出さないとだめだと言われて、今借りられない状態です。老人会の方2人が市役所に行きましたら、その管理人さんと市の方の話が一致してしまっていて、それはもう貸せないということと言われて帰ってきたんです。市長さんそんなことあるんでしょうか。みんな税金払っているんですからね、そういうもの貸していただきたいんですよ。

(市長)

どういう事情でそうなっているのかが分かりませんが、通常でいけば市営住宅の中にある集会所、しかもそれが市営住宅に属する集会所であるならば、優先的なのは市営住宅の入居者でありましょうけれども、今お話を聞いた限りでは、空いている場合に貸すのはノ一だというのはどのような事情かなとは思いますが。

(参加者)

それが市の課長さんが、うちはそういうことやってないから向こうは向こうでやってくださいって話になっちゃったんですよ。市役所の係の人がきちっと説明してくれればいいんですけど、もうあやふやで、話が行き違いになっちゃって。だから私もある市議の方に相談しようと思ったんですよ。でもその方が朝行っても夜行っても、ちっともないんです。だから相談できずに今までずっと来ちゃったんです。

(総合政策部長)

すみません、今の話だけですと、市長が申し上げたとおり前後関係が分からないところがありまして、一旦ここでこうしますということもなかなか言えませんので、市営住宅を管理している課の課長に、ここでそういう話があったということでお伝えして、明日にでもその件について見解というかそれを再度お答えさせていただきたいと思えます。

(参加者)

幸町四丁目の団地に住んでいるんですけど、くるりんバスの件です。こちらは、くるり

んバスが来なくなっちゃったんですよ。それでお年寄りの方が非常に困っているんですね。幸町団地から立川行きのバスがあるんですけど、それ1本なんですよ。それで医者に行くにも何にしてもシルバーパスがある人はいいんですけど、シルバーパスのない人はくるりんバスがなくて非常に不便を感じていますから、ぜひ通していただきたいんですけど、市長お願いいたします。

(市長)

くるりんバスの件については、先ほども別のところでほとんど同じような話を承りました。とにかくバスに人が乗らないのです。これは西砂町の路線バスの話ですけども、バスに乗る人が極端に少ない状況です。空気だけ運んでいる状態の時も結構あるということで、バス会社は市の補助金があっても赤字で厳しいということです。

新型コロナの影響もあり、お客を探すといってもお客が来てくれないので、バス会社からは来年また路線バスの減便をしなければなりませんというお話があるとのこと。

(参加者)

西砂町のほうは、くるりんバスが通っていますよね。砂川九番のほうは、私たち結構乗っていたんですけどね。そんな7~8人ということはないと思うんですけど。どうしてこうなっちゃったか、本当にみんな困っているんですよ。ぜひとも、通していただけたらと思います。年々お年寄りが増えますからね、乗りたいと思っているんですけど、少しそこも関わっていただくようお願いしたいんです。

(市長)

お困りの気持ちはよく分かりました。運行数もやむを得ないから減らしたが、お客さんが戻ってこない、来年はどうなるか分からないという旨の話が、バス会社のほうからされています。立川全域がそのようになっては困ると思っています。何とかこれから最後はお金の話になるのでしょうけれど、ただ、空気を運ぶような状態のバスが1日のうちに何回か出てきてしまうことになると、これはまたエネルギーのロスにお金を使うだけにもなりますので、簡単に結論を出すわけにはいかない。今一番悩ましいのはバスの件でございまして、よく承知しています。

(参加者)

すみません、今の件なんですけど、乗り手が少ないというのは乗る人がいないところを通るからじゃないかと思うんです。私も何回かは乗ったことがありますけど、ほとんど乗らないです。だからそういうところを通すというのは無駄なことだと思うんですよ。それよりも本当に乗客のいるようなところをピックアップして運行するべきじゃないかと、そういうこともちょっと考えていただいたほうがいいかと思っています。

(市長)

そうですね。バス会社のほうはとにかくバスを通すわけですので、1人でも2人でも多く乗ってもらったほうがいいと、当然収入も増えるわけですから。いずれにしても、分かりました。

(参加者)

若葉町から参りました。

実は先日、若葉台小学校が来年の4月から新しい旧けやき台小学校へ移ってくるということに関して、そのあとの若葉台小学校周辺の使い方ということでワークショップを開催

するという説明会があったんです。

そのときに今後のワークショップをどういう形で進めていくか、あの地域をどのように開発するかということをやるので、実は去年の「市長と語ろう！」でも、ぜひ若葉台小学校を新しい地域開発するまでの間どういう使い方をするかに関して地域の声を聴いていただきたいという願いをしたんです。そのときに市長から地域の方に相談申し上げてどういう使い方をするかは検討しますからというふうにお返事いただいたのですが、先日のワークショップの説明会の中で、今現在の若葉台小学校、旧跡地、使わなくなる若葉台小学校の使い方もワークショップの中で話すんですねってお伺いしましたら、それはやりませんということなんですよ。

使わなくなる若葉台小学校に関しては体育館、校庭等は今まで使っていた人たちが使いたいのであれば使うことはできますが、それ以外に関しては市のほうに申し込みをさせていただいて使っていただくような形になりますというお返事だったのですが、とりあえず、あそこの学校を使わなくなった段階でどういうふうにするかということに関して、若葉町の皆様にご相談申し上げますというふうに伺っていたそのお約束はどうなったのでしょうか。

(総合政策部長)

ご意見ありがとうございます。私もその若葉町のワークショップの説明会に出ていましたので再度確認の意味で申し上げます。

時間軸としては来年の4月、旧若葉小、現在の若葉台小が使っているところは跡施設になります。私どもが言ったのは暫定的な利用期間、それと本格的な跡地活用の期間ということで、ワークショップの中では主に本格的な跡地利用をどうするかということをお皆さんのご意見を伺いながら、それを参考にしていきたいと思います。

暫定的な利用期間については、来年の4月から活用が始まりますが、あくまでも暫定の期間でございますので現在利用されているところに加えて、新たなご利用の希望があった場合にもそれについてもまたご相談に乗りますということですので、特に昨年市長から申し上げたことと、齟齬はないと考えています。

(参加者)

確かにこの春からコロナ関係でそういう会議等ができなくなっているというのは理解できますけれども、前年のお話ではどういうふうな使い方をするかに関しては地域の方のご意見を伺いますというお話だったんですね。ということであればどのように使いたいですかというようなことが各団体に下りてきてもいいのではないですか。私は子ども会も文化会もやっているし、管理運営もやっています。青少健にも入っていて地域の中で一応顔を出しています。ですが、地域の団体にそういうことが下りてきたことは一度もないんですよ。だから地域の方にご意見を伺いますということイコール、市のほうで決めてこういうふうになりましたということになるんですか。

(総合政策部長)

私どものほうで確かに文化会等に話は伺っておりません。現在使っている地域の体育関係団体には来年度4月以降どうしますかという形のお話はさせていただいているところでございます。今申し上げられたように地域の中で例えば文化会であるとか、そちらのほうでこういった利用という提案があれば、それはこの間申し上げたとおり、全体の場合ということではなく、個別にご相談に乗りますということでございます。あくまでもそれも暫

定の期間の話ですので、これが2年間とか3年間、最終的には若葉町のまちづくりということで、あの跡地をどうすることが一番有効かということを検討していきます。その間の取り扱いですので個別の相談ということでお願いしています。それはまさに私どもとしては話し合いの場ということではなくて、個別にお話を伺いますということでございますので、特段それが私どもの言っていることとやっていることが大きく異なるとは考えていないところです。

(参加者)

そうすると地域の人が、例えば今現在は各団体が何かの行事でという形の申請の仕方しているんですが、これから例えば子どもたちの居場所づくりに使いたいとか、新しいイメージをもってご相談申し上げたときには、どういう部署でどういう形で使えるかどうかのご判断はしていただけるんですか。

(総合政策部長)

子どもたちの居場所づくりである場を使うということであれば、それは行政経営課のほうにご相談ください。この間説明に伺った部署です。

ただ、新たな若葉台小学校新校舎には今までより30人定員を増やした学童もできます。地域の住民の皆さんの考えるやりたいことと市の施策は、やはりすり合わせが必要だと思います。すり合わせをしないままに様々なことをやるというのは、これは効率的ではないと思います。それで子どもの居場所ということであれば子ども家庭部のほうも含めて地域需要がどうなのかということも話した上で考えるべきだと思っています。以上です。

(参加者)

幸町に住んでおります。

皆さんとちょっと変わった質問なんですけども、医療のことに関してなんです。今年に入ってから大きな病院は紹介状がないと受け付けてくれないって話になっているんですね。今までは紹介状がなくても受け付けてくれたわけなんです。それが新聞にも出たっていうんですけど、近所でもかかることができないわけですよね。他のクリニックに行かなくちゃいけない。それはちょっと無理だと思うんで、何とか紹介状がなくても受け付けてくれるような方法がないか。

つい2~3日前に、病院に連絡して話を聞いたんですよ。そしたら初診は絶対受け付けませんと、紹介状を持ってきてくださいと言われました。紹介状を持って行ける人と行けない人がいると思うんです。それを何とかできないのか。

患者が行くから病院の経営が成り立つわけですよね。その病院はどういうふうを考えているのか。それで大きな病院はみんなそうやってきたというわけなんです。だからそれをもう少し何とか市として考えていただきたいと。これは私だけでなく、市民のためにもそういうことを訴えたいんですよ。誰が行っても診てくれるよう、お願いしたいと思います。

(総合政策部長)

これは立川のみならず全国の自治体で同様だと思いますが、1つは国の方針があって、まず皆さん地域のクリニック、診療所のかかりつけ医を利用してくださいという前提がございます。その後にかかりつけ医では対応できない、例えば入院して手術が必要だということであればかかりつけ医の先生から大きな病院に紹介状を書くという流れになっています。それはやはり大きな病院というのは高度医療を中心に行うべきところというのが国の

考えです。まずはお近くのご自身の体のことをよく知っている先生に診てもらった上で、大きな病院での処置が必要なのか、それともクリニックや診療所で対応できるものかということで、どうしてもこれは国の方針ですので、特に立川市で先ほど言った紹介状がなくても受診ができるようにというのは、非常に難しいと思います。以上です。

(参加者)

私はね、失礼ですけどそうは思わないですよ。私、医療関係にいました。それで小さな病院じゃないんですけども、どなたでも受け付けました。患者さんというのはどれだけの病状があるのかわからない人もいると思うんですよ。それは病院へ行って初めて分かることです。そういうことを差別しないで欲しいです。その病院の言い分としては、救急車で来た患者さんは軽症も重症も、誰でも受け付けるというんですよ。

私もう20年も前から知っている病院なんですけど、初めてではなく今まで通っていたとしても、軽症であっても重症であっても受け付けてくれたところが、今は受け付けないということなんですよ。だからそこを何とか患者さんのために受け付けられるような方法を取っていただけたらと思います。

(総合政策部長)

答えは同じになってしまいます。市だけで対応できるものではありません。国の医療の考え方が変わらない限り、おっしゃっていることを実現することは難しいと思います。

(参加者)

柏町に住んでおります。

学習館とか公民館とか今まで会議とか集会ができていたところが、今コロナでほとんどできなくなりました。本当はやりたいんですけど、できないからせめて今までやっていたことをZoomやWebexで伝えられるようにしたいんです。

だけこの間、参加しているボランティアでそういうことをやろうと思ったら、どこの学習館もWi-Fiがなくて、使えなかった。ウィズコロナの時代になっちゃって、これから大勢が集まることのできない、学習をすることもできない。

実は私そんなWebexとかZoomなんて知らなかったんですよ。だけど一緒にボランティアやっている人で企業にお勤めの方は、Zoomで会議や営業をしているって聞いて、お金がかかっているところは対応が早いと思ったんです。そういうものがどんどん使えるように、これからの時代もっとITを使わなきゃならなくなるだろうと思いますし、もう満員電車に乗らなくても仕事できるようになったって分かっちゃったから、今までと同じようにはならないだろうと思うんですね。

自分の家から試してみたんですけど、周りの音が入っちゃって全然聞きにくくて、講演にならないんですね。やっぱり学習館のほうが声は聞こえないし、環境音をちゃんとカットできるし、だから講演する人がきちんとホストを務められる、そういう場所をもっと増やしたい。これからはいろんなお知らせをするにも、それから意見をもらうにもそういうものを使ったほうがいいと思うんですね。国際的な環境団体では、Zoomを使って映画の上映や講演会、何十人もの参加者をグループ分けしてディスカッションまでやっているんですね。

これから自営業で倒産する人多いんじゃないかと私は思っていますし、事前にできるだけいろいろ勉強して、情報集めてもらって、一番痛みの少ない倒産の仕方だとしてZoomで相

談したっていいわけですよ。どんどん情報発信していかなくちゃいけないのに、講演とか相談会でやろうと思ってもコロナでできない。

午前中に幸学習館で防災の会議に出てきたんですけど、とてもいい内容だったんですよ。ただそれをもっと大勢、友達なんかにも聞かせたいと思ったんですけど、講座はそんなに集まらないし、だからこれもZoomで一緒にやってほしかったなってすごく思ったんです。そういうことがあるので、どこの学習館にもWi-Fiが使えるように、至急してほしいと思っています。立川市の財政に関係のある人に聞いてみたんですけど、今コロナの時代にすごく必要だから大至急学習館でWi-Fiが欲しいんだっていったときに、それができるかどうかは財政のどの費目を見ればいいんですかって聞いたら、それぞれの場所、企画課なり教育課なり、下から情報が上がってきたらそれを検討して決めることになるって言われて。そんなこといちいちやっていたら、その間にどんどんみんな息切れして倒産してっちゃうんじゃないかっていう気がする。

これだけコロナで急に状況が変わったんだから、市長の一声でWi-Fiが必要だという声があるようだったらWi-Fiをそれぞれ必要なところで全部使えるようにしてしまうとか、コロナだからこそ市長でなきゃできないような、予算があるから急にそんなこと言ったって財政の方はそんなのオーケーなんか出せるわけないと思うので、もしあるんだったら臨時予算でも何でも使って、とりあえず学習館や図書館、公民館でまずWi-Fiが使えるようにしていただきたい。

(総合政策部長)

こういう状況の中ではテレワークだけではなくそういった講座の環境にも大きく影響していて、集まれなくても先ほどお話があったZoomとかWebexを使った中で遠隔での会議というのは可能になったのは事実でございます。

立川市では、実はあまり公共施設にWi-Fi環境を設置していないので、やはり同様の要望があって、まず9月に補正予算を出ささせていただきました。市民会館、RISURUホール、それと北口の女性総合センターアイムにWi-Fiを設置することにいたしました。設置するだけではなくてそれをずっと継続するにも通信費等が必要になるので、学習館と学習等供用施設をどこまでやるかということは今予算の中で考えているところでございます。

ただ環境を充実させることによって可能となることも増えるということは私どもも承知しております。来年度も非常に厳しい予算の中でどこまでそれが実現できるかというのは今ちょうど市長含めて調整しているところでございます。以上です。

3 閉会の挨拶

(市長)

ご協力ありがとうございました。様々な形で皆さんが地域の中で活動されているということも身に染みて感じているところでございます。ご提案がありましたそれぞれの課題につきましては、ちょうどいま予算編成の真っ最中でございまして、可能な限り実現へ向けて努力をしまいたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

今日はどうもありがとうございました。